

<シリーズ 音声訳上の処理 第4回>

漢字の補足

久保 洋子

目で見れば解ることが声にすると解らなくなる、そんな時に補足するわけですから、補足は基本的にはその場でします。解らない時に、聴いている人にはそれが漢字の補足がないためだということは解りません。解らないと思わないうちに補足があれば、私たちが墨字を読むのと同じように読んでいくことが出来るはずです。

補足する言葉は本文の意味に沿って選びます。熟語を使うようなとき、本文と関係のない熟語で補足すると本文がわからなくなります。これは訓読みを補足するときも同じです。補足する言葉にたくさんの同音異義語があったりすると混乱が起きます。紛らわしい語がないか、辞書を引いて確認して下さい。

漢字の形(偏や旁)で説明するのはその必要がある特別の場合だけです。漢字をよく知っている利用者もたくさんいらっしゃいますが、その場合でも漢字を思い浮かべてそれから意味を考えるのでは大変です。くり返しますが、できるだけ活字を読むのに近い条件で読んでいただけることを目標にして下さい。以下にいくつかの例をあげておきます。

・ 同音異義語

そこで使われている言葉が、同音異義語の中のどの言葉かがすぐに解るように補足することが必要です。方法としては次のような事が考えられると思います。

- 1 言葉の意味で補足する 一般的によく知られている英語で補足してもよい
例 耕地・高地(耕した土地・高い土地)
創造・想像(作りはじめる創造・思い描く想像 クリエイション・イマジネーション)
注意 意味で補足する時は辞書を参照して間違いのないように補足すること
- 2 訓読みを補足する
例 生(生きる 生まれる)

注意 本文の意味に則した訓読みを選ぶこと

3 その言葉を含む熟語を使って補足する

例 聖（旧約聖書のせい）

注意 本文の意味から離れないこと 選んだ熟語に紛らわしい同音異義語がないか注意する

4 漢字の偏や旁（つくり）で区別する

例 話 嘶 咄（三つのはなしの違いを述べているような場合）

・造語

一字一字に意味のある漢字を組みあわせて造られた言葉ですから使われている漢字を説明します。

1 訓読みで意味がわかるように云い添える

例 育自（自分を育てる）

2 使われている漢字を含む熟語で補足する 文意に沿った熟語を選ぶこと

例 育自（育てると自分のじ）

・音読みと訓読み

音読みも訓読みも同じ漢字であることが解るように補足する。

例 鏡川（きょうせん）は出身地高知の鏡川（かがみがわ）からとった号です

文末で「きょうせんはかがみがわの音読み」と云い添える

・文字そのものが問題になっているとき

例 キントンは金団と書きます。

キントンは金銀のきんと団子のだんと書きます

注意 補足は原文を読んで云い添えるのが原則ですが、この場合原文をそのまま読んでも意味がありません。

例 百日紅(さるすべり)は三ヶ月も咲き続けることからその名がついた
さるすべり 漢字は百日と紅 は・・・・

・漢字の形が問題になっているとき

例 眼下に広がる晋の首都は品という字を逆さまにした形に見える

文末で「品という字は四角を上の一つ、下に二つ重ねた形です。」と補足する。

12月11日(水)

「ボランティア研修会」の録音分科会報告

午前の部の講演会「司馬遼太郎を語る」には130人を超える方の参加がありました。午後の録音の分科会には録音分科会だけの参加もあり、3つの分科を合わせ150人の参加がありました。

今回の各分科会ではデジタル録音とはどんなものがあるかを実際に見てもらう程度の内容でした。当日実施したアンケートにはデジタル録音の講習会があれば参加したいとの声が多数あり、関心の高さが伺えました。

これからのデジタル録音作りのいろいろ

盲人情報文化センター
録音製作係 清水賢造

はじめに

現在、カセット録音からデジタル録音に切り替わる過度期にあります。視覚障害者にとってはまだまだカセットテープ図書は主流ですが、いずれカセットテープからデジタル図書へと変化していくことは確実でしょう。市場ではすでにオープンテープがなくなり、カセットテープもメーカーによっては製造中止するところも出ています。またSONYが製作している録音図書専用機「TC-RX1000T」も来年度には製造中止が決まっているようです。その一方でデイジー図書の再生専用機（アメリカ製）が近く2万円～3万円程度で発売されるようです。また、再来年度にはプレクストークも日常生活用具として認められるのではないかともいわれています。

ボランティアグループや録音図書を製作している点字図書館や公共図書館などから、「いつ切り替えたらいいのか、デジタル録音するにはどんな機種があるのか」といった質問も多くなってきています。

そこで、今回の研修会では、カセットデッキに変わってデジタル録音するとしたら、現時点で、どんなものがあり、それぞれどんな問題があるか、校正やカセットテープにするにはどうするか、などといった点を実演を通して認識してもらい、今後のデジタル録音へ移行するに際しての参考にしてもらおうということで分科会を企画しました。

第1分科会および第2分科会で紹介するデジタル録音機はどちらも10万円余りしますので、まだまだ個人で購入するには高価な買い物になります。第3分科会で紹介しますが、デジタル録音ができる専用ソフトを使えばノートパソコンで録音が可能です。MP3での録音も可能、校正も市販のMP3が再生できるCDプレイヤーでできますので、グループでの導入も比較的しやすいのではないかと考えられます。

問題はCDからカセットテープに変換する作業をいかにスムーズに行えるかが鍵になってきます。デジタルからカセットにコピーするコピー専用機もありますが、現状では100万円前後で、どこでも簡単にそろえることはできません。将来、こうした機器が安価になることもあまり考えられません。ノートパソコンはかなり普及していますので、カセット化の問題を解決していけばデジタル録音がかなり進むと予想され

ます。

カセット変換する作業については音訳者が行うのではなく、専用コピー機が揃えられる機関がCD録音をカセット用のデータに変換したり、カセットにコピーして提供したり、さらに必要ならデジター図書にするとといったサービスを展開していく必要があると思われます。

それぞれの分科会の内容

第1分科会

「プレクストークポータブルレコーダー PTR1」を使っての録音図書作り

シナノケンシ株式会社が今年8月に発売した①デジター図書が聞けて、②録音が可能なデジタル録音・再生機です。視覚障害者が使用できるように操作はすべて音声ガイド付きです。

音訳者が使用するには表示がなく、音声だけがたよりなのでかなり慣れる必要があります。価格は95000円と高価です。

録音方法

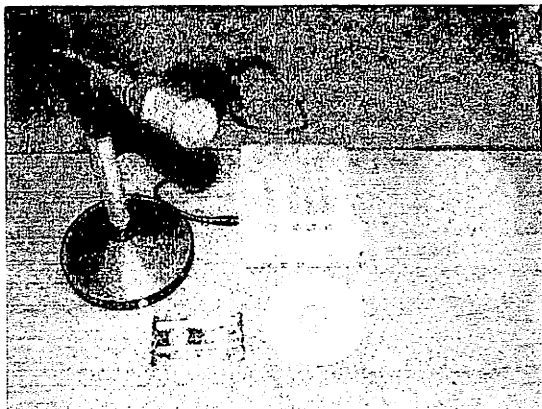
- ①CDRWを使ってカセット片面単位で録音する。
- ②あるいは、先にCD図書として完成させ、後でカセット用に分ける。
※編集が必要になる

校正体制

- ①Mp3の再生ができるプレイヤーで校正
- ②あるいはノートパソコンで校正
- ③CFカードでパソコンで校正

カセット化

- ①等速でカセットに落とす
- ②一旦、MOに落として専用のコピー機でコピー



第2分科会

「DX5」(オタリのデジタル録音機)を使っての録音図書作り

「DX5」はOTARITEC(オタリテック)株式会社が製作したデジタル録音図書製作専用機です。録音図書製作用として開発されたものなのでなれると大変使いやすいと評判です。挿入や削除などが自由自在にできます。

難点としては、①デジタルなので若干トラブルも起きます。(データが瞬時に消えることもある!)②MOを使用するのでMOからカセットにコピーする為のコピー機は、約120万円程度します。またDX5は一台、10万円程度しますので個人での導入は困難でしょう。図書館などに限られそうです。

録音方法

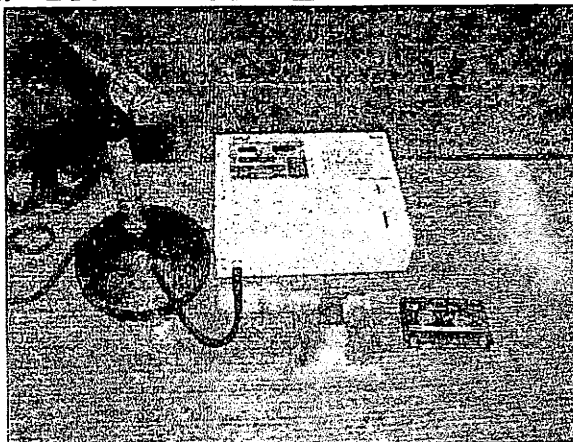
- ①カセット片面単位で録音する。

校正体制

- ①専用のコピー機でカセットにコピーして校正
- ②データを変換してパソコンで校正

カセット化

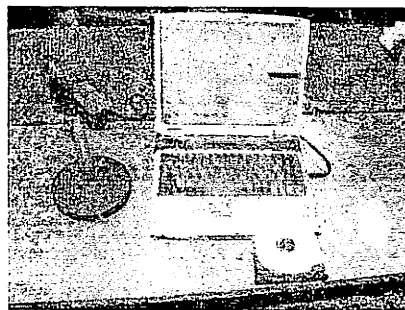
- ①専用のコピー機でカセットに落とす



第3分科会

「ノートパソコン」を使った録音図書作り

※ プレクストークレコーディングソフトウェアを使用 ソフトは「PTR1」を購入したときに一緒に提供されているソフトです。近々、リハ協から各館やグループにこのソフトとほぼ同様のものが配布されることになっています。録音設定でPCMやMP3で録音することが可能。挿入、削除も自由自在にできます。画面と音を聞きながら録音ができますのでなれば使いやすいでしょう。ここ最近のCDR-Wが付いているノートパソコンをお持ちの方なら、わざわざデジタル録音機を購入しなくてもノートパソコンを使用して録音できます。



難点としては①デジ編集をしている人は簡単に使えそうですが、パソコンにある程度なれないと使いにくい。②CDからカセットに変換するのに手間がかかる。

録音方法

- ①カセット片面単位で録音する。
 - ②先にCD図書として完成し、後でカセット用に分ける。
- ※編集の作業が必要になる

校正体制

- ①Mp3の再生ができるプレイヤーで校正
- ②パソコンで校正
- ③デジ図書再生専用機で校正

カセット化

- ①等速でカセットに落とす
- ②一旦、MOに落として専用のコピー機でコピー

※ どの方法をとるにしてもデジタルで録音するには校正体制と当面のカセット化をどうするかという問題がおきてきます。これをいかに費用や手間をかけずに行えるかが今後のデジタル化のスピードを左右していくと思われれます。

理数の専門書を読む

ボランティア募集します！

近畿視情協理数チーム

最近、物理や数学などの専門書の音訳依頼が結構あります。こうした分野の資料は近畿視情協の理数チームにお願いをしています。しかし、理数チームのメンバーだけでは対応できなくなってきていますので、今回、数学関係の資料を読む音声訳者を募集することにしました。

条件は、現在、音声訳の経験があり、かつ、数学の知識がある方。

応募される方は、課題文①と②をカセットテープに録音して頂き、「盲人情報文化センター 理数チーム 宛」お送りください。録音されたテープを試聴しまして判定させていただきます。

課題文

次の方程式を解きなさい。

1. $1.2(2x-1) = 2.7x + 0.3$

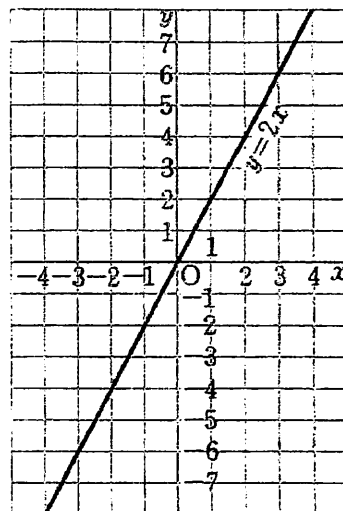
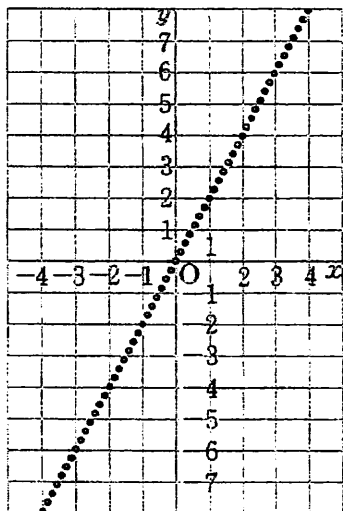
2. $\frac{3}{5}x + \frac{7}{6} = \frac{1}{3}x - \frac{3}{2}$

課題①

3. $\frac{3x+5}{4} = \frac{x-5}{3}$

4. $\frac{x+1}{3} + \frac{3x-2}{2} = 3$

課題②



問2 $y = -2x$ のグラフを、上の右の図にかき入れなさい。

利用者から制作依頼を受けている原本

『マンション管理士管理業務主任者』マンション管理法令研究会著<商業経営>

※この本は共同製作可能の本です。グループでの製作を募集します。

『笹百合』森山 陽子著<雑著>

『イチローのメンタル』豊田 一成著 <スポーツ>

『大東亜戦争の実相』瀬島龍三著<政治>

『福祉住環境コーディネーター3級過去問題集』渡辺光子著<>

『生駒山の生き仏 宝山湛海律師』 東山緑 著

→引き受けていただいたグループ

『障害者の雇用差別 日本から見たスウェーデンの実態』

I CCB

『デリシャス 10月号』

グループいずみ

『平成三十年 上』堺屋太一 著 <小説>

グループポップ

『平成三十年 下』堺屋太一 著 <小説>

//

デジター編集をはじめ（その11）

8. My Studio PC

※お詫び、前回11回を飛ばしてしまいました。

My Studio PC は、編集操作に対応して音声ガイドがあるなど視覚障害者自身がデジター録音・編集を行うことができるように工夫されたソフトウェアである。また、ほとんどマウスを使うことなく簡単なキー操作だけで編集を行うことができること、ビルドブックに引き続いて同じ My Studio PC 主画面から CD 書込みも行うことができるなど、編集操作が大幅に簡略化されている。さらに、音声は MP3 エンコーダーで取込み、編集するのでコンパクトなデータサイズで高音質、長時間のデジター図書を作製することができる。

筆者の所属するグループでは、リハ協より My Studio PC (バージョン 1.00.02、以下ベータ版と呼ぶ) の供与および講習を受ける機会を得、これを用いて一部のデジター図書を作成し貸出しも行っている。しかし、ベータ版では音声データの取込みが等速テープ転送またはライブ録音に限られるなど、データ取込みの点などで満足できない面もあった。しかし、近日リリース予定の最新バージョンではデータ取込みのほか、機能面でも大幅に改良されているようであり、これからデジター編集をはじめの初心者の方にはお勧めの編集ソフトである。

以下では、My Studio PC (ベータ版) について紹介する。最新バージョンとは一部異なることになるかも知れないが、概要は紹介できるものと思う。

8. 1 My Studio PC における録音

プロジェクトの新規作成では録音に先立ち、先ずビットレートを設定する。MP3 のビットレート (bps) は 48 k、32 k、24 k、16 k の中から選択することができる。CD (700MB) 1 枚に記録できる時間の目安は 48 k では 32 時間、32 k では 48 時間、24 k では 64 時間、16 k では 96 時間であるので、録音時間に応じてビットレートを選択できる。ビットレートが大きいと録音時間は短い、逆にその分音質は良くなる。

Sigtuna DAR 2.0 におけるキャリブレーションに代わり、図 8. 1 に示す録音設定画面でノイズレベルを「高い」、「標準」、「低い」の三つのレベルから選択すればよい。また、録音開始後一定時間以上音が無いと録音が停止する自動録音停止機能がある。Sigtuna DAR 2.0 ではテープ転送で録音する場合は手動で録音を終了しないと、無音の録音が延々と続いたのに対し、音が一定時間 (例: 30 秒) 無いと録音が自動的に終了するように設定できるので、録音の途中でも席を離れることができるのはありがたい。主画面の録音ボタンを 1 回クリックすると音声レベルがレベルモニタに表示されると同時に、「高い」、「良い」または「低い」などと

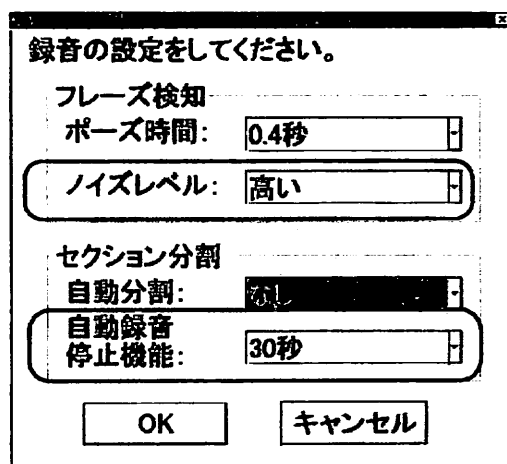


図 8. 1 録音の設定画面

一定間隔で繰返し音声ガイドもあるので、「良い」が続くようにボリュームを調節した後、録音ボタンをもう一度クリックすると本番録音がスタートする。

8. 2 My Studio PC による編集

My Studio PC の主画面（編集画面）はセクションリストやフレーズリストほかから構成され、SigtunaDAR2.0 と類似しているが、操作はきわめて簡単である。全ての編集操作を簡単なキー操作だけで行うこともできるので、マウスを使う場合に比べて大幅に編集のスピードアップを図ることができる。

図8. 2 My Studio PC 主画面



8. 3 ビルドブックおよび CD 書込み

編集終了後のビルドブックでは同じプロジェクトホルダーの中でファイルが整理されるので、新たにホルダーを作る必要はなく、〔ツール〕メニューからビルドブック画面を開き、〔開始〕ボタンを一度クリックするだけでよい。またこのとき、discinfo.html ファイルも同時に作成される。

別に CD 書込み用ソフトの必要はなく、ビルドブックを行った同じ編集画面の〔ツール〕メニューから図8. 3の CD 書込み画面を開き、書込み速度（例：8倍速）等を設定するだけで、CD 書込みを行うことができる。

CD にはビルドブック後のプロジェクトホルダーと discinfo.html ファイルが書き込まれる。

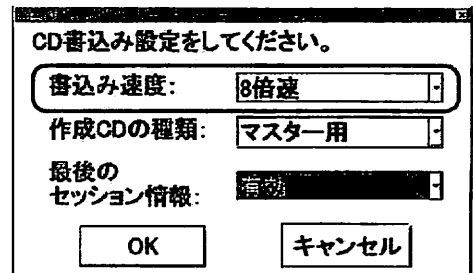


図8. 3 CD 書込み設定画面

(テープライブラリーにしのみや 鳥生次郎)